

# 中期経営計画

## “No Limits! Push Forward Together!”

### 最終年度の計画達成を目指します



代表取締役社長  
内山 高一

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当社事業へのご理解と共に、厚いご支援を賜り、心より感謝いたします。第72期中間期(2018年4月1日～9月30日)の当社を取り巻く事業環境、業績と今後の施策と配当につきましてご報告いたします。

#### 厳しい市場環境の中国

世界経済が米中貿易摩擦の影響などから、先行き不透明感が強まる中、昇降機業界におきます事業環境は全般的に堅調でした。米国では、好調な経済状況から需要は底堅く推移しました。一方、中国市場は、堅調な内需に支えられ、安定した経済成長が続くものの、昇降機市場は低価格帯中心の市場環境となり、厳しい価格競争が継続しました。

南アジア市場は、インドが昨年施行された物品・サービス税の導入や、不動産取引に関する法律の施行による景気の停滞から回復し、堅調な市場環境となったほか、その他各国も緩やかな景気回復から需要は底堅く推移しました。

日本におきましては、雇用情勢と企業収益の改善により景気が回復基調で推移する中、ホテルや事務所向けの需要が堅調に推移しました。

#### 北米と南アジアが増益

このような市場環境の下、当社におきます2019年3月期第2四半期連結累計期間の業績は、前年同四半期に比べて減収減益となりました。売上高は前年同四半期比4.8%減の774億8,200万円、営業利益は同22.8%減の41億4,300万円でした。経常利益は同20.7%減の49億6,100万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同13.1%減の39億3,500万円となりました。

各セグメント別の状況ですが、東アジアは新設工事の減少に加え、中国での販売単価下落、韓国の輸出採算の低下から減収減益でした。北米は新設工事が減少した一方、工事採算の向上から減収増益となりました。南アジアはアフターマーケットビジネスが好調に推移したことにより増収増益でした。欧州は前期のドイツ子会社売却により減収減益。日本は、新

設事業・アフターマーケットビジネスとも増加した一方、人件費など固定費の増加もあり、増収減益となりました。

## 強みを再認識し事業展開を加速

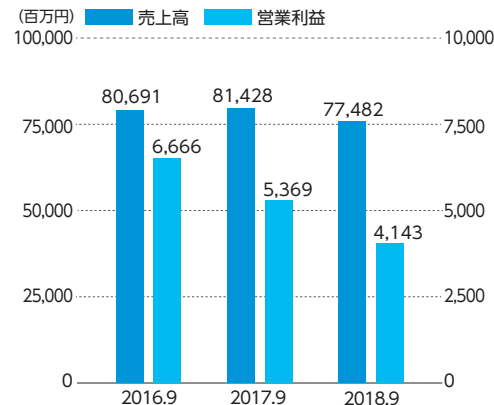
中期経営計画“**No Limits! Push Forward Together!**”は残すところあと数ヵ月となりました。最終年度の計画値は売上高1,700億円、営業利益103億円です。この目標を確実に達成し、良い形で次の中期経営計画につなげます。

当社にはこれまで培ってきた「業界に先駆けたグローバル展開」、「**専門メーカーとしての一貫体制**」といった独自の強みがあります。当社の強みを再認識し、これらの強みを活かした事業展開を加速させてまいります。

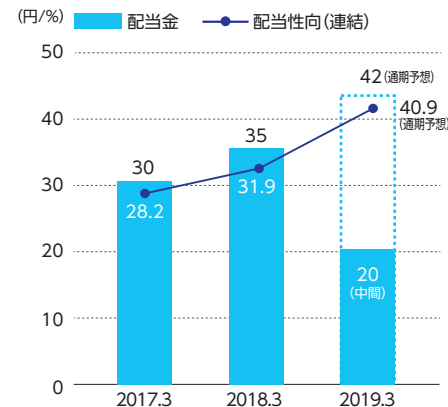
## 株主の皆様へ

中間期におきます1株当たりの配当金につきましては、期初計画通り前年同期比5円増配の20円とさせていただきます。また、期末配当金につきましては、2円増配の22円を予定しております。フジテック・グループ全社を挙げて、目標の達成に向けて邁進してまいりますので、引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 売上高・営業利益の推移



### 1株当たりの配当金と配当性向(連結)の推移



## Cover Story 渋谷ストリーム 東京都渋谷区

旧東急東横線渋谷駅のホームおよび線路の跡地等を利用した地下4階、地上35階建ての大規模複合施設“渋谷ストリーム”。店舗、ホテル、ホール

のほか渋谷エリア最大級の賃貸面積を誇るオフィスで構成されています。ここでは、分速360mの高速機種を含むエレベータ14台が稼働しています。